

平成29年度第2回国立研究開発法人森林研究・整備機構契約監視委員会概要

1. 開催日時	平成29年11月21日（火）13:30～15:30
2. 場所	森林総合研究所特別会議室
3. 出席者	<ul style="list-style-type: none"> ・風間委員長、高橋委員、鈴木委員（監事）、平川委員（監事） ・森林総合研究所、林木育種センター、森林整備センター、森林保険センター契約担当者
4. 審議等の概要	<p>(1) 平成29年度上期における契約状況 (報告内容)</p> <p>①平成29年度上期については、4月～8月までを集計しており、平成28年度上半期（4月～9月）と単純に比較出来ないことをご承知願いたい。その上で、今年度上半期の契約状況を説明する。</p> <p>(質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度上半期について、4月～9月までを集計して、平成28年度上半期との比較ができるように資料をお願いしたい。 <p>(回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上半期を比較できるように4月～9月までの資料を作成して、後日送付する。 <p>(2) 平成28年度下期及び平成29年度上期の随意契約及び一者応札・応募案件 (質問及び回答)</p> <p>① 情報セキュリティシステム工事について、落札した業者は必要資材の数量等についての認識に誤りがあったとのことであるが、再入札などはしないのか。</p> <p>(回答) 適正な入札手続きにより行われたものであることから再入札とはならない。また、入札価格調査においても、履行できることを確認している。</p> <p>② 土地使用料（長期）となっているが、毎年度契約している。複数年契約をすることを検討しているのか。</p> <p>(回答) 国有林の場合は、激減緩和処置により毎年一定額の減額となっていることから、毎年の使用許可となっている。</p> <p>③ 万能試験機の説明で、落札率100%と説明しているが、資料の一覧表では85.33%となっている。同じ業者の落札率がほとんど100%であるのになぜ違うのか。</p> <p>(回答) 後日、改めて説明させていただきたい。</p> <p>④ 英文校閲業務（単価契約）の落札率は44.1%となっているが、来年度の予定価格は今回の落札率を勘案するのか。</p> <p>(回答) 仕様内容が全く同じであればそのようなことも考えられるが、仕様が異なればその都度判断することになる。</p> <p>⑤ 参考見積書だけで予定価格を積算するものは、どのような場合のものなのか。</p> <p>(回答) 研究機器であれば定価設定がないもの、役務であれば物価資料等に同様の業務がないものなどである。</p> <p>⑥ 九州支所共同特殊実験棟他建替工事の落札業者が長崎県の業者であるのは、一度入札が不調になったことにより地域要件を拡大したのか。</p> <p>(回答) 地域要件については変更をしていない。なお、競争参加資格等級A及びBであるものを、再入札に際してC等級まで上げたところである。</p>

⑦ 森林整備センターのネットワークシステムの構築について、この業者以外に考えられないとの理由があるのであれば、事務・業務改善に繋がる随意契約を検討できるのではないか。

(回答) 特定の業者しか実施できないとの明確な理由と根拠がなければ、一般競争入札を行うことになる。

⑧ システム関係の一般競争入札について、複数年契約をすれば事務簡素化にもなるし、又、長期契約すれば価格が下がる可能性があるのではないか。

(回答) 今回の給与システム関係では、年金制度一元化に伴う改修や確定拠出年金の改定に伴う改修であり、その都度発生する業務となっている。

⑨ 財務会計システムに係る運用等業務では、プログラムソースコード等の開示を行っていないため、この業者しか契約できないと言うことか。

(回答) そのとおり。市販のパッケージソフトは、開発元が著作権を持っていることが多く、プログラム改修時には開発元を通すことが多いようである。

⑩ 参考見積書などに見積額が大きいときなどに、予定価格の妥当性などを検証する業者はないのか。

(回答) 幅広い研究分野であり、研究用機器については化学的なものから土木機械などまで幅広いため、それらの価格の妥当性を検証できる第三者は実態として存在しない。

⑪ 予定価格を決める内部プロセスは、どのようなものか。

(回答) 予定価格の取扱いは、機密性3と最高レベルに格付けされており、最小必要人数での決裁となっている。

(3) 平成28年度下期及び平成29年度上期契約の2ヶ年連続の1者応札・応募案件
(計21件)

(質問及び回答)

① 資料の一覧表9番と16番の契約締結日について、平成28年とあるのはおかしいのではないか。

(回答) 資料は誤りである。何れも平成28年度下期及び平成29年度上期の契約の応募案件である。

(4) 新たな競争性のない随意契約案件について (計5件)

(5件の案件について説明し、特に意見等がなかった。)

5. 審議結果の取りまとめ

今回の審議について、委員会として取りまとめる。

(1) 一者応札・公募について、引き続き、公告掲示場所を増やす、公告期間を見直しするなどの改善に向けた取組をお願いしたい。

(2) 平成29年度上半期における契約状況について、9月までの契約状況とした上で、改めて資料を取りまとめ願いたい。

(3) 一者応札・応募案件の説明が保留となっているもの(万能試験機)について、落札率の違いを説明願いたい。